

平成17年度第1回計量行政審議会における
議題2「新しい計量行政の方向について」についての主な御発言
(第2ワーキンググループ関連)

【全般】

- ・ 今後の計量行政のあり方として、当然なことながら、引き続き正確な計測を可能とするようにして頂きたい。次に、計測における国際整合化の確保、三つ目として、国際動向や既成概念に囚われない審議をこの場でお願いしたい。
- ・ 計量は、国家関係の基盤的制度であり、国家としても重要な要素。多層的かつ戦略的に対応していくべき。縦割り行政の問題があり、他の分野で必ずしも同じ基準が使用されていないかも知れないが、この審議会がオーケストラの指揮者の役割を担うべき。
- ・ 新しい計量制度の検討は、ムード先行ではなく、社会的信頼感や秩序を維持することが重要。また、取引に関わる需給両サイドからの理解が得られる制度でなければならない。

【執行体制】

- ・ 計量事務の自治事務化により、自治体間のバラツキや問題が生じているのでしょうか。
- ・ 自治事務としてよかったのか。そもそも計量は、文化・経済の基盤のため、統一的に運用していくことが重要ではないか。

【情報提供】

- ・ 計量の大切さについて、これまで一般消費者に対する情報提供がほとんどなかった。消費者にとって中身を知ることが大事。ホームページだけでなく、パンフレット、セミナー等により計量の大切さを伝えるべき。
- ・ 一般レベルの意識改革が重要であるが、情報は単に提供するだけでなく、関心を持ってもらうことが重要。教育のカリキュラムとしてどう取り入れるかも含めて、包括的に考えていくことが重要。